

## (2)自己を見つめる

道徳的価値の理解を**自分との関わり**で捉える  
(小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」)

- これまでの自分の体験、経験やそのときの感じ方、考え方と**照らし合わせながら**、道徳的価値についてさらに考えを深めること(内省することができる)。
- 自らを振り返って**成長を実感**したり、**これからの課題や目標を見つけたり**できるようになること。
- 自己や社会の未来に夢や希望をもてるようになること。

### ■「うばわれた自由」(自律、自由と責任)の学習におけるワークシートから

今日勉強して、僕はたまにジェラルルのような周りを考えない自由をしていたけれど、その自由は周りが困ってしまうことだとわかったので、これからはガリユーのような周りのことも考える自由を直していこうと思った。

(例)自由について考える「うばわれた自由」の学習では、自分の経験や体験に基づいて様々な「自由」について考えることができました。また、そこから今後のあるべき自由の姿について自分なりに考え、捉えることができました。

## (3)物事を多面的・多角的に考える

よりよく生きる基盤となる道徳性を養うには、子どもに**多様な感じ方や考え方に**触れさせることが大切

- 一つの事象(登場人物の言動等)に対して多様な意見や考えをもつことができる。
- 一人の登場人物だけではなく、いろいろな人物の視点からねらいとする道徳的価値について考えることができる。
- 諸事象(登場人物)の背景にある道徳的価値の多面性に着目させ、それらを手掛かりにして考察させ、様々な角度から総合的に考えることの大切さに気付くことができる。

### ■「花さき山」(感動、畏敬の念)で、「おらはいらねえから、そよサ買ってやれ。」と言ったあやの気持ちを問う発言から

(あやの気持ちの他に)「そよは、『ねえちゃんありがと。』と感謝している気持ちがいっぱい。」「おっかあは『すまないねえ、あや。』とあやの思いやりや気遣いに感謝していると思う。」など、発問に対して他の人物から言及する発言があった。

(例)「花さき山」の学習では、あやだけでなく、そよやおっかあなど様々な登場人物の心情を考えることができました。道徳科の学習では、多面的な視点で物事を捉えています。

### ■「おらの花が咲いてるな。」と思った時のあやは、どんなことを考えているかを問う発言から

「親切にしたり、思いやりをもって接したりすると花が咲く。」「ほしいのを我慢して譲ると花が咲く。」「家族のことを思って行動すると花が咲く。」などの価値から中心価値に迫ろうとする発言があった。

(例)「花さき山」の学習では、ねらいとする道徳的価値「感動、畏敬の念」について、「親切、思いやり」や家族のことを大切に思う「家族愛」など多角的な視点から捉え、しっかり考えることができました。

## (4)自己の生き方についての考えを深める

- 道徳的価値に関わる事象(登場人物等の言動)を自分自身の問題として受け止められるようにする。
- そこで、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする。
- さらに、**これからの生き方の課題を考え**、それを**自己の生き方として実現**していこうとする**思いや願いを深める**ことができるようにする。
- 道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを確かに想起したりし、そこから自己の生き方の課題を考える。

### ■あなたは、「最後の葉」(よりよく生きる喜び)を学習してどんなことを学びましたかという展開後段の発問から

嵐に抵抗して必死に壁にしがみつき、「生きよう、生きよう」とするつたの葉の姿から、死ぬことしか考えていなかったジョンシーが生きることの大切さを学んでいる。私も、これからいろいろなことがあるだろうけど、今日の話思い出して頑張って生きていこうと思った。

生きてほしいと必死に願うベールマンさんの思いを学び、これからは自分自身の生き方に喜びを見出していこうと思った。

(例)「最後の葉」では、登場人物の必死に生きようとする、また必死に生きてもらおうとする思いから「よりよく生きる喜び」に関わる道徳的価値を自分事として捉え、自らの思いや願いを深めていました。これからの生き方の課題についてよく考えていました。

## IV 指導と評価の一体化のために

### 参考：＜学習指導過程や指導方法に関する評価チェックリスト＞

(1)学習指導過程	<input type="checkbox"/> 道徳的価値の理解	<input type="checkbox"/> 自己を振り返り、見つめる
	<input type="checkbox"/> 自己の生き方を展望	<input type="checkbox"/> ねらいに即した指導の手立て
(2)発問	①導入 <input type="checkbox"/> ねらいへの発問	<input type="checkbox"/> 教材への発問 <input type="checkbox"/> 両方への発問
	②前段 <input type="checkbox"/> 中心発問→ねらいの達成	<input type="checkbox"/> 中心発問に向けた基本発問
	③後段 <input type="checkbox"/> 道徳的価値(内容項目)を主体的に自覚する(自分事に)	
	④終末 <input type="checkbox"/> 余韻	<input type="checkbox"/> 子ども一人一人が道徳的価値をまとめる
(3)子どもの発言	<input type="checkbox"/> 傾聴して受け止める	<input type="checkbox"/> 発言を指導に生かす
	<input type="checkbox"/> それぞれの発言を関連させ、授業の深まりをつくる	
(4)教材や教具の活用	<input type="checkbox"/> 教材提示の方法(語り、紙芝居、ICT機器、BGM等)	
	<input type="checkbox"/> 場面絵等、学習を補う教具の活用	
(5)指導方法	<input type="checkbox"/> 構造的な板書	<input type="checkbox"/> 子どもにとってわかりやすい板書
	<input type="checkbox"/> 子どもの実態や発達に即した指導	
(6)配慮を要する子ども	<input type="checkbox"/> 発達障害や海外から帰国した子ども、外国人への配慮	